

第6回 持続可能で希望ある岩手を実現する行財政研究会

資料2-1 県内の人口の動向等について

岩手県政策企画部

0-1 分析目的と分析結果の概要

1 R3人口減少対策WGの分析結果の振り返り

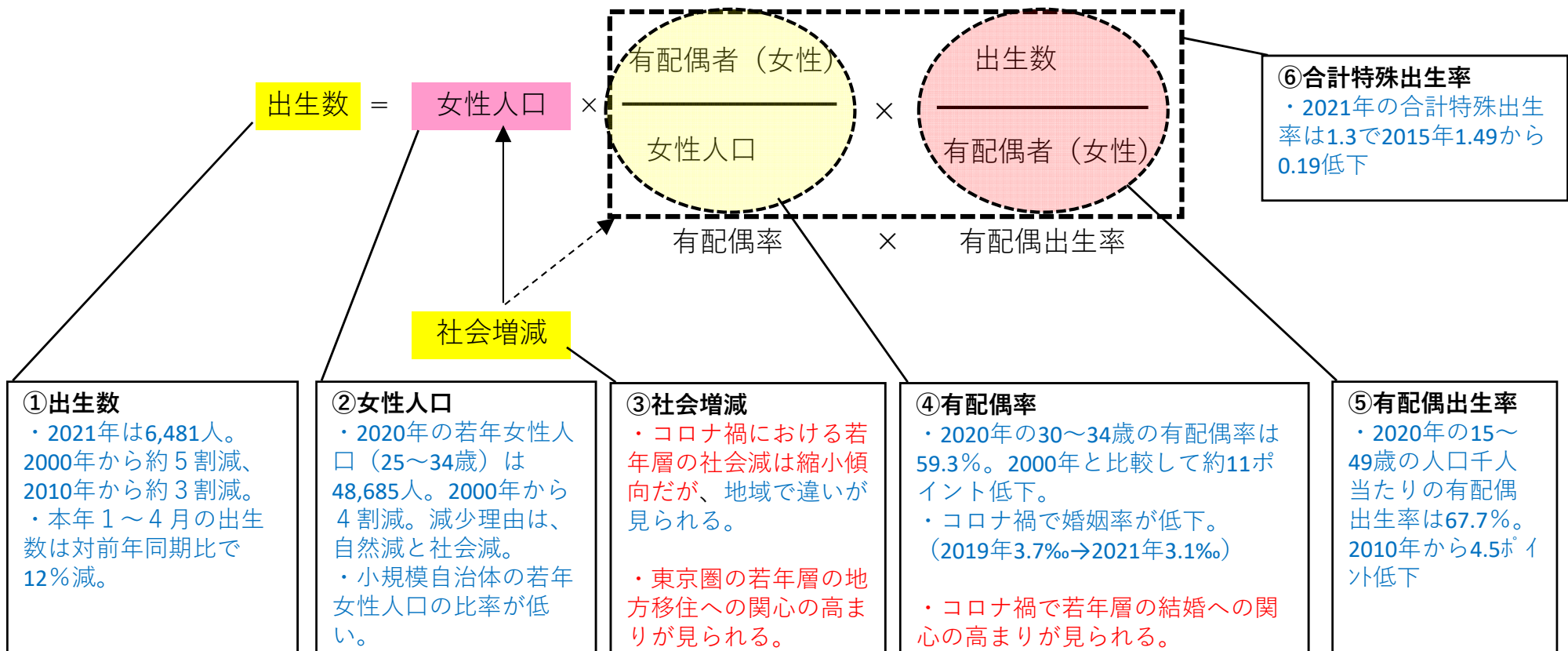
- (1) 本県の出生数の減少は、他県（同程度の人口規模7県）と比較して、合計特殊出生率の低下の影響が大きい。（女性人口の減少は8県で共通）
 - (2) 「25～29歳」の女性人口の減少に社会減が強く影響
 - (3) 「25～29歳」「30～34歳」の出生率は8県の中で低位。特に「30～34歳」は最下位。
 - (4) 婚姻件数の減少率（2014→2019）は、8県の中で悪い方から2番目（最下位は青森県）。
 - (5) 通勤・仕事・家事・育児の合算時間は、本県の女性が最長（620分。最短愛媛県525分）。
- ⇒ 産業・働き方に加え、子育てを支える文化を含む地域づくりが必要。

※先行の研究結果では、出生率の低下の主な要因は、非婚化、晩婚化であり、近年は有配偶出生率も低下。

2 今回の分析目的：当面重点的に検討すべき施策の方向性

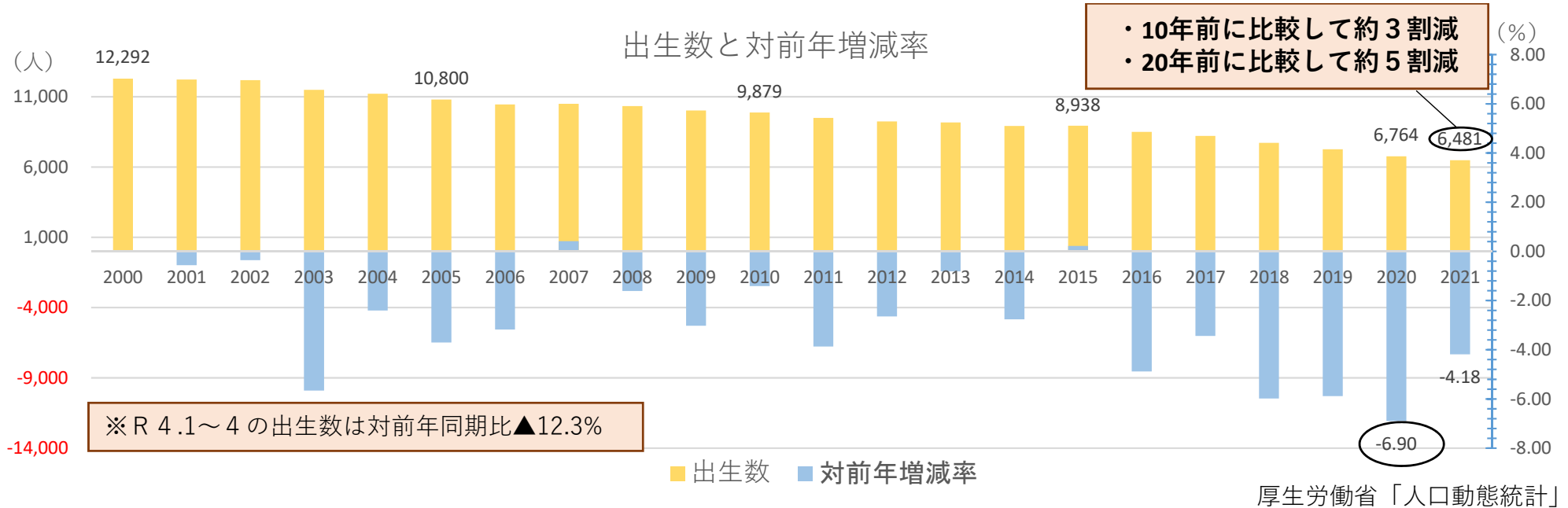
図1

合計特殊出生率（15～49歳の出生率を積み上げ）



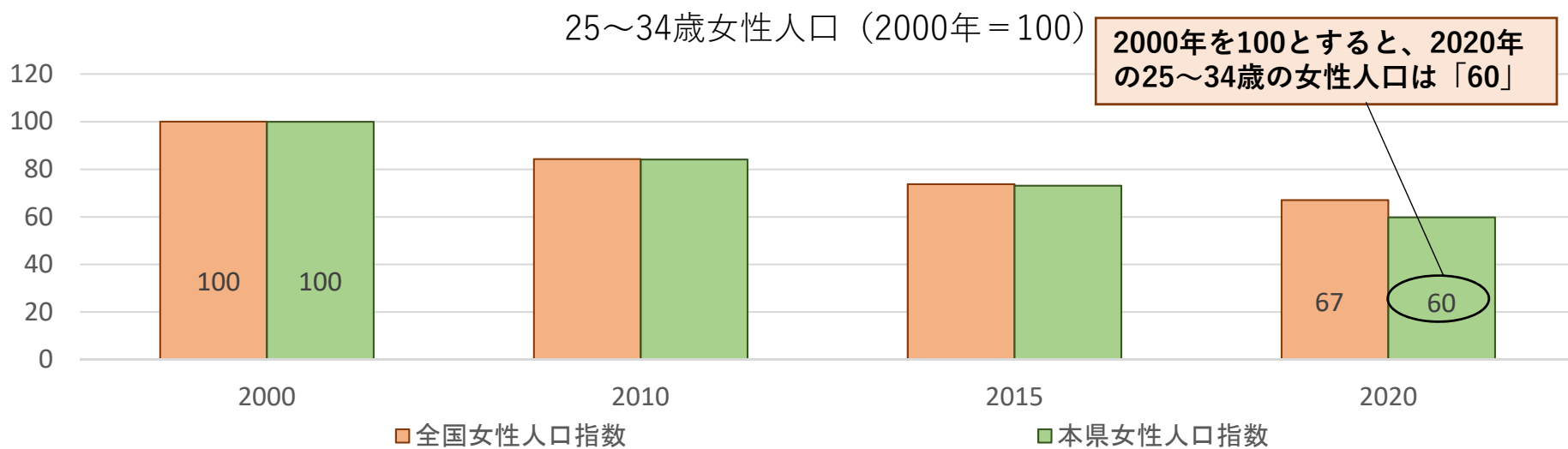
1 出生数の減少

〈自然減〉



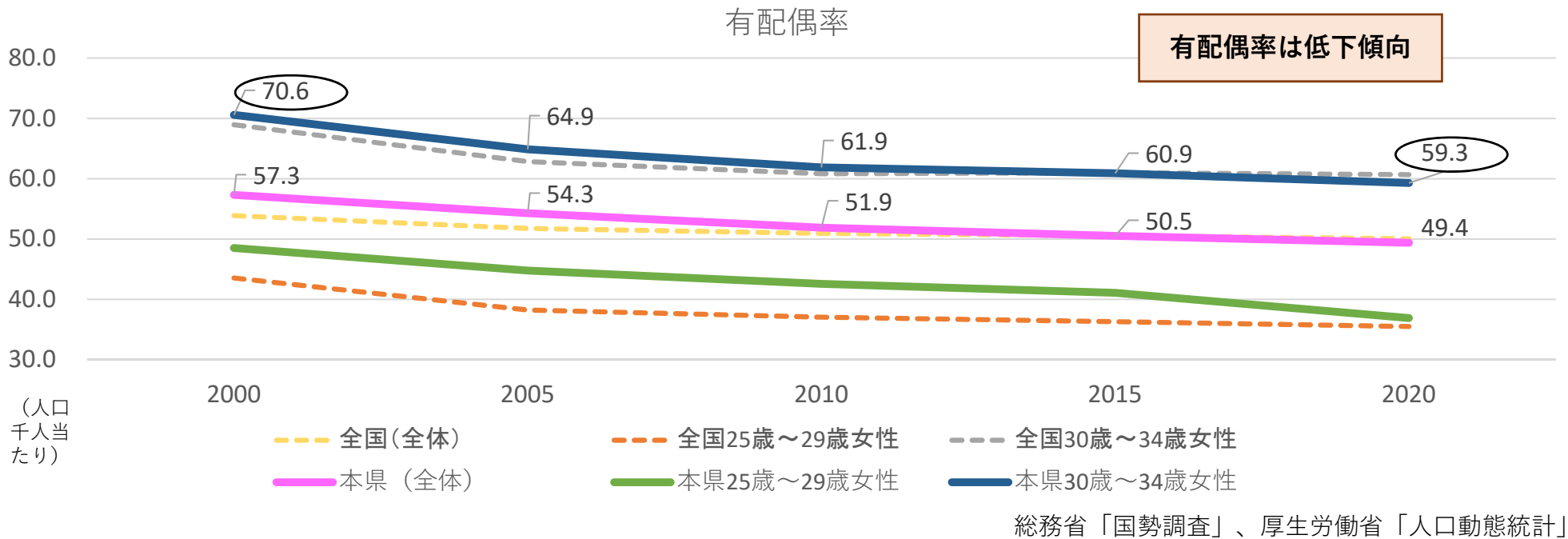
2 若年女性の減少

〈自然減〉



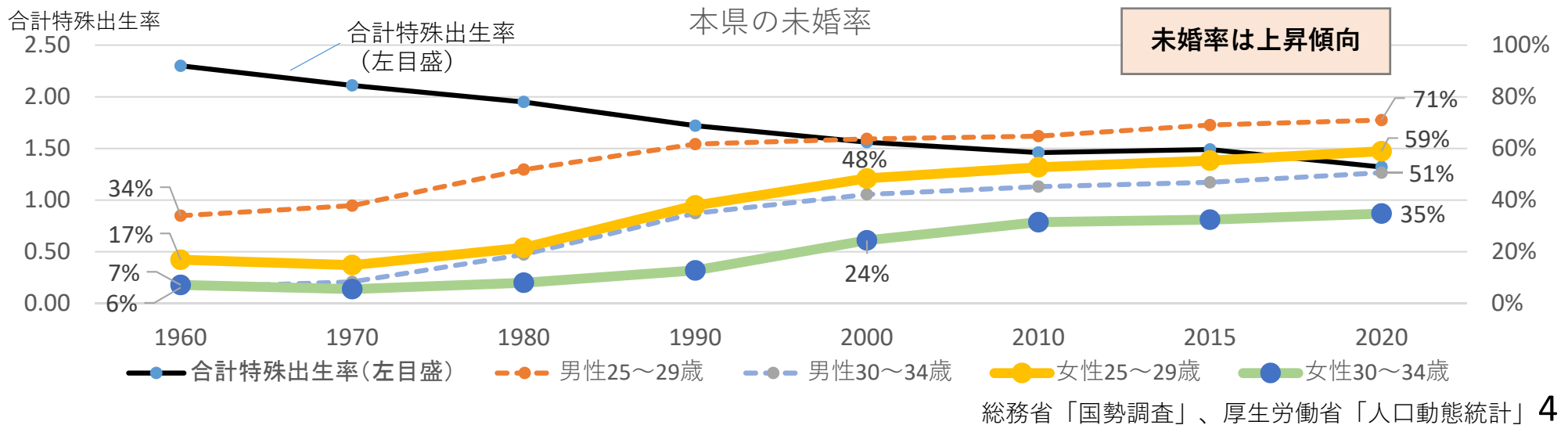
3-1 有配偶率

〈自然減〉



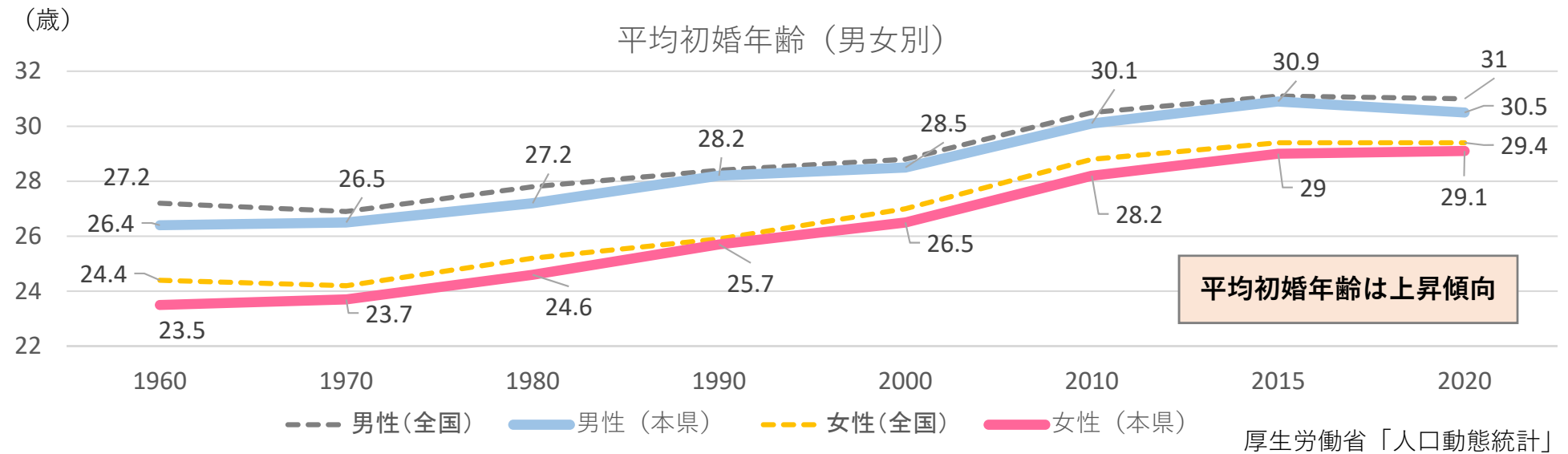
3-2 未婚率

〈自然減〉



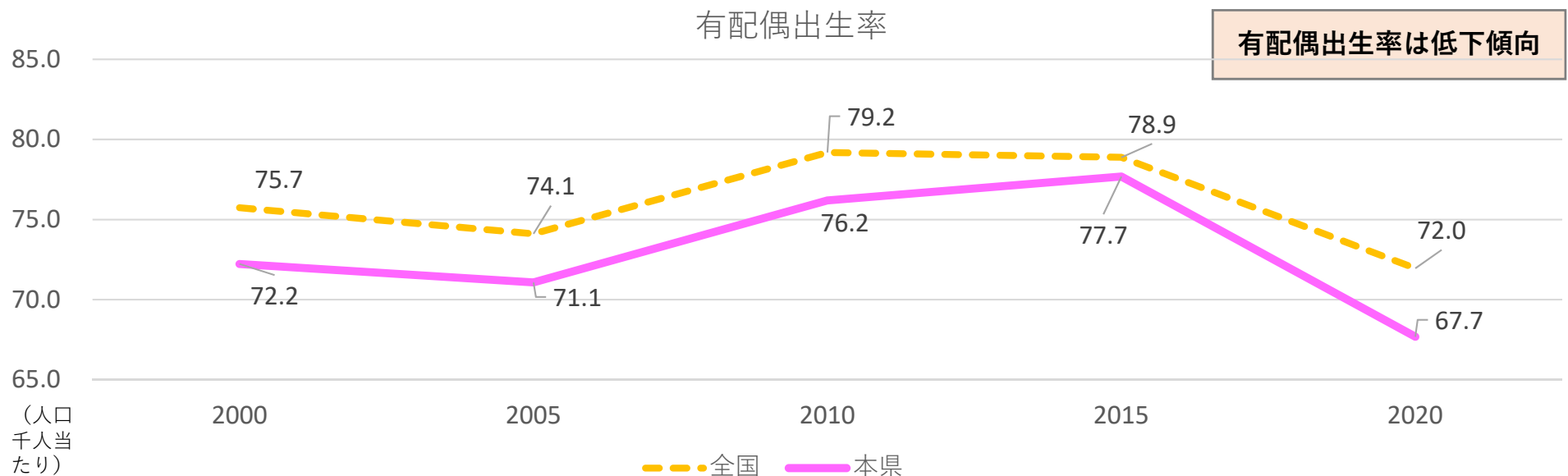
3-3 平均初婚年齢

〈自然減〉



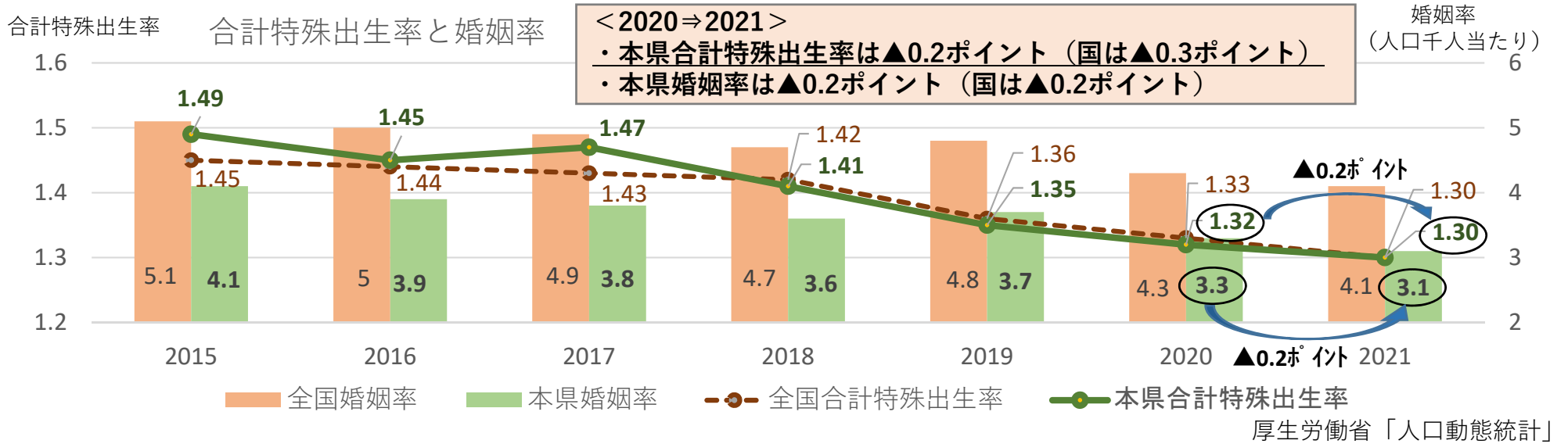
4 有配偶出生率 (15~49歳)

〈自然減〉



5 コロナ禍の婚姻率

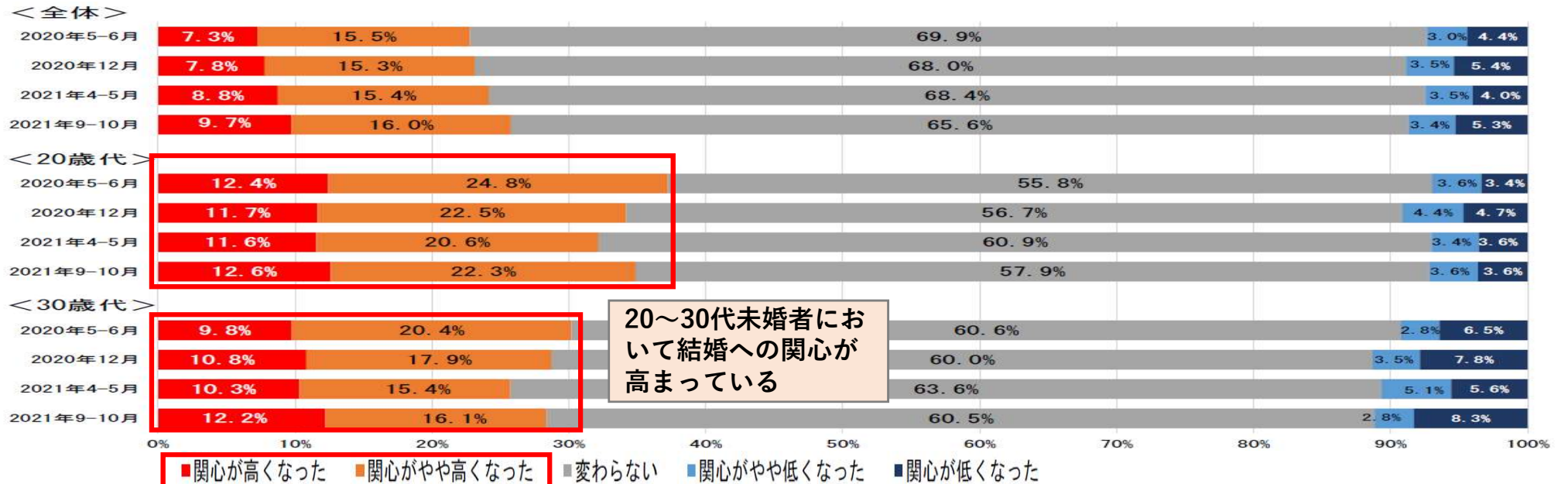
〈自然減〉



6 結婚への関心の変化 (未婚者)

※2019年12月 (感染症拡大前) からの変化を質問

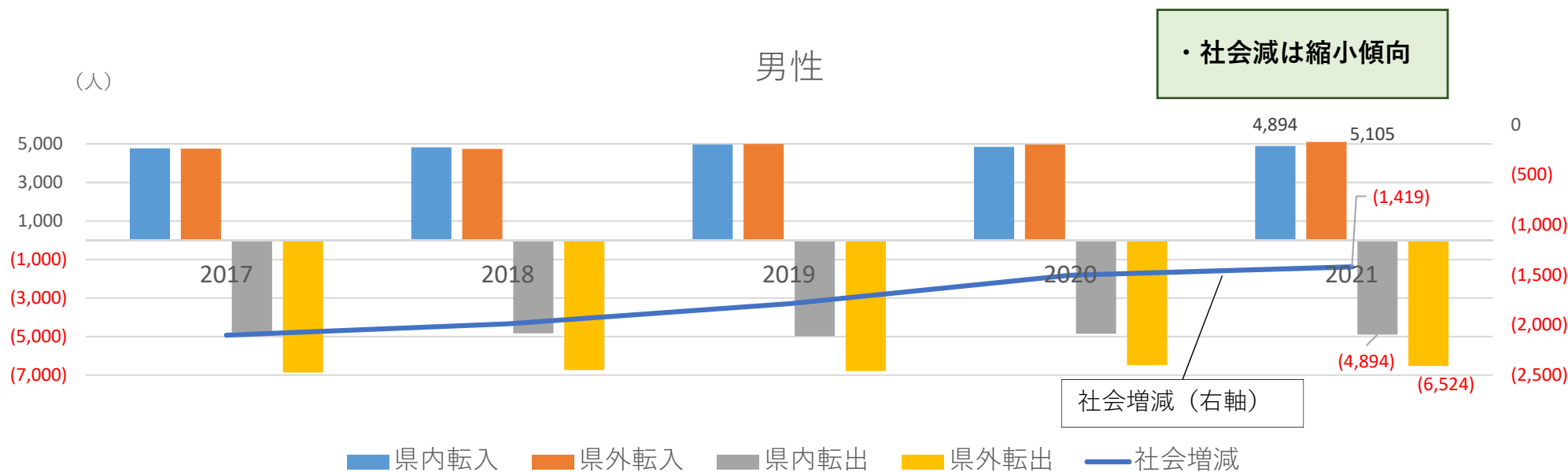
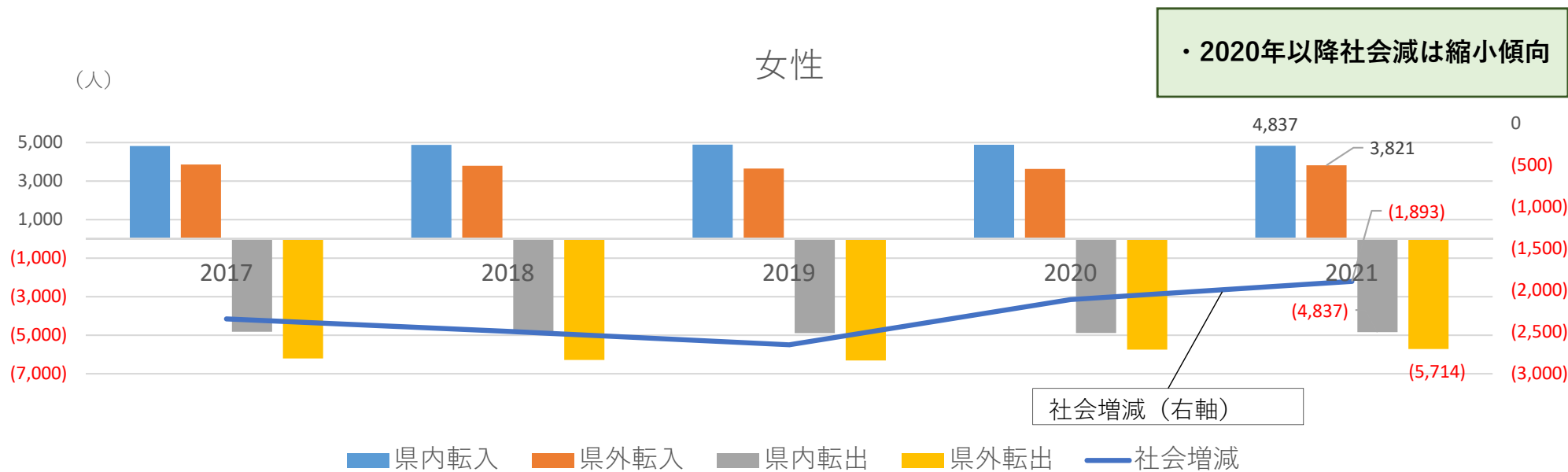
〈自然減〉



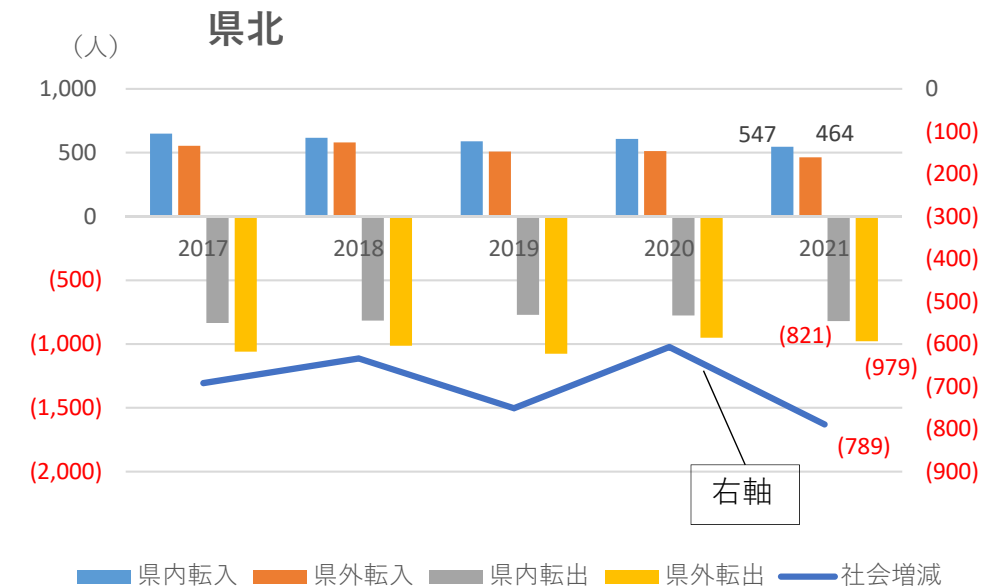
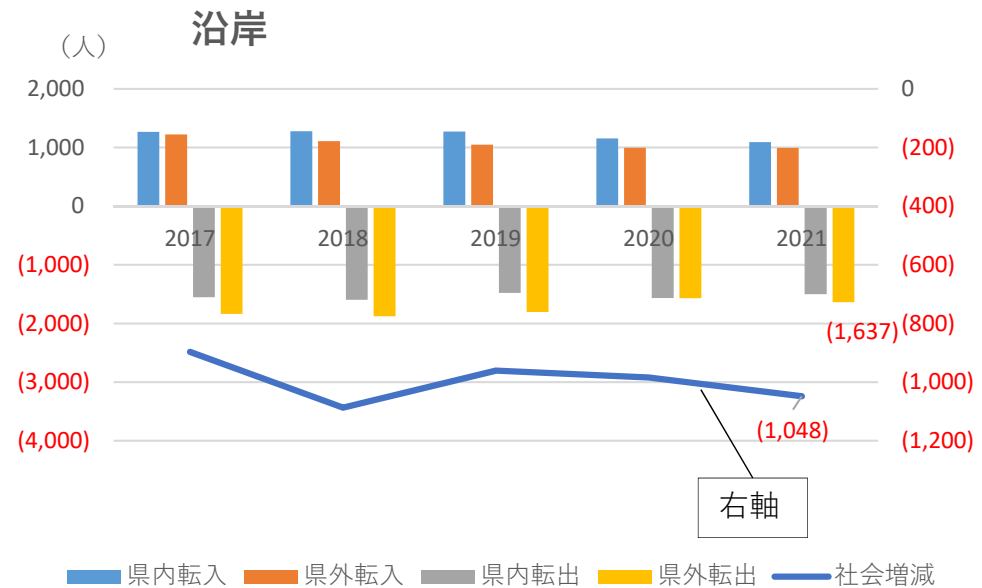
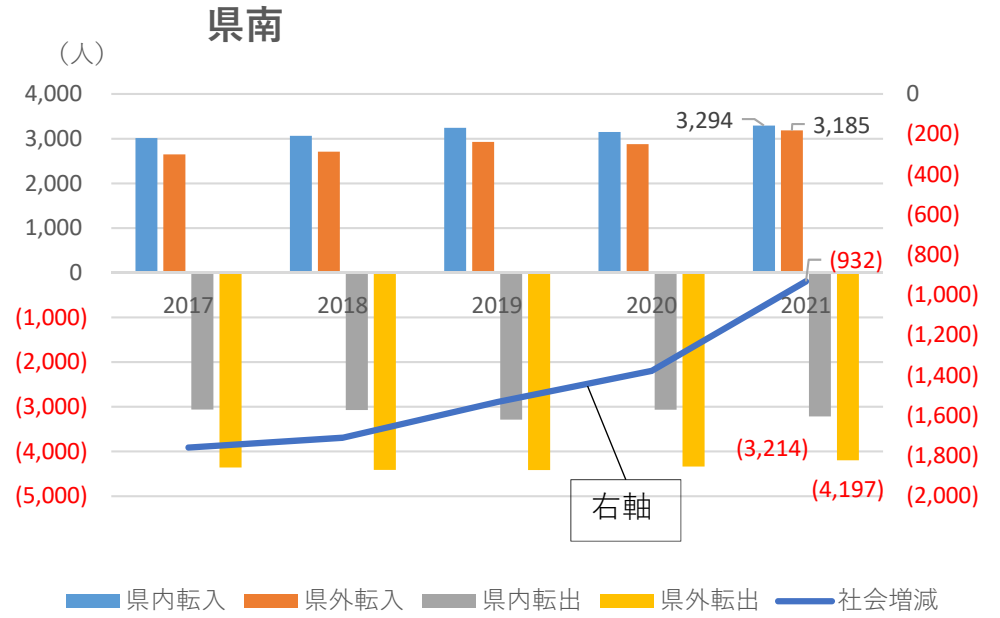
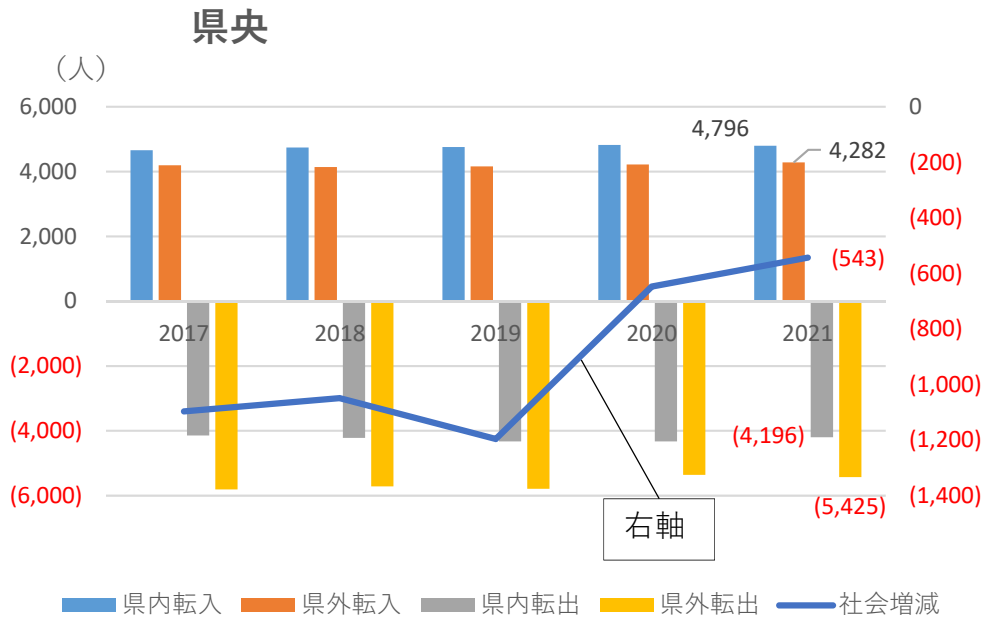
内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」 (2021年11月11日発表)

8-1 コロナ禍における社会増減（15～34歳）

〈社会増減〉

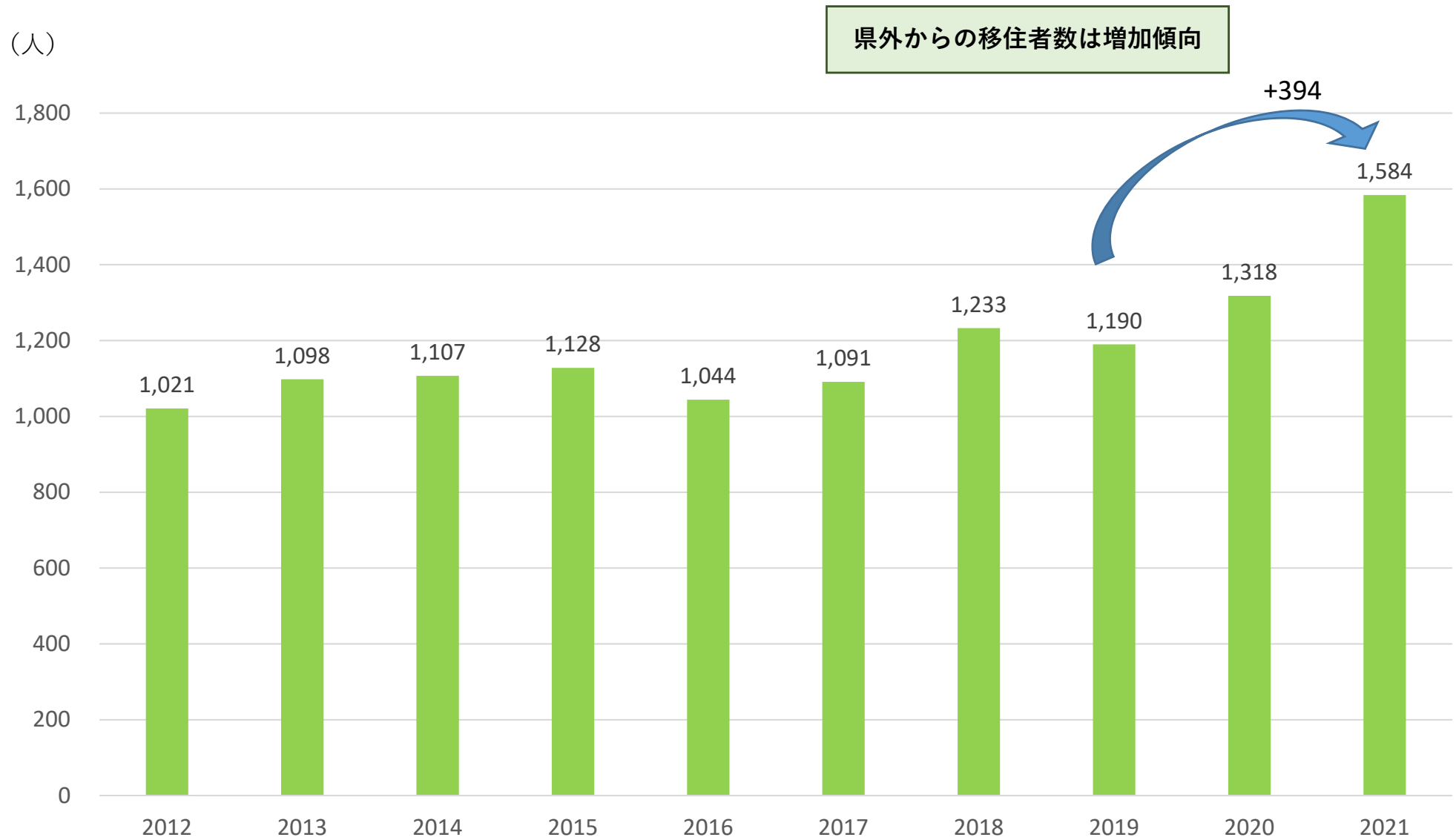


8-2 コロナ禍における社会増減 (15~34歳の男女) <社会増減>



9 コロナ禍における県外からの移住者数

〈社会増減〉



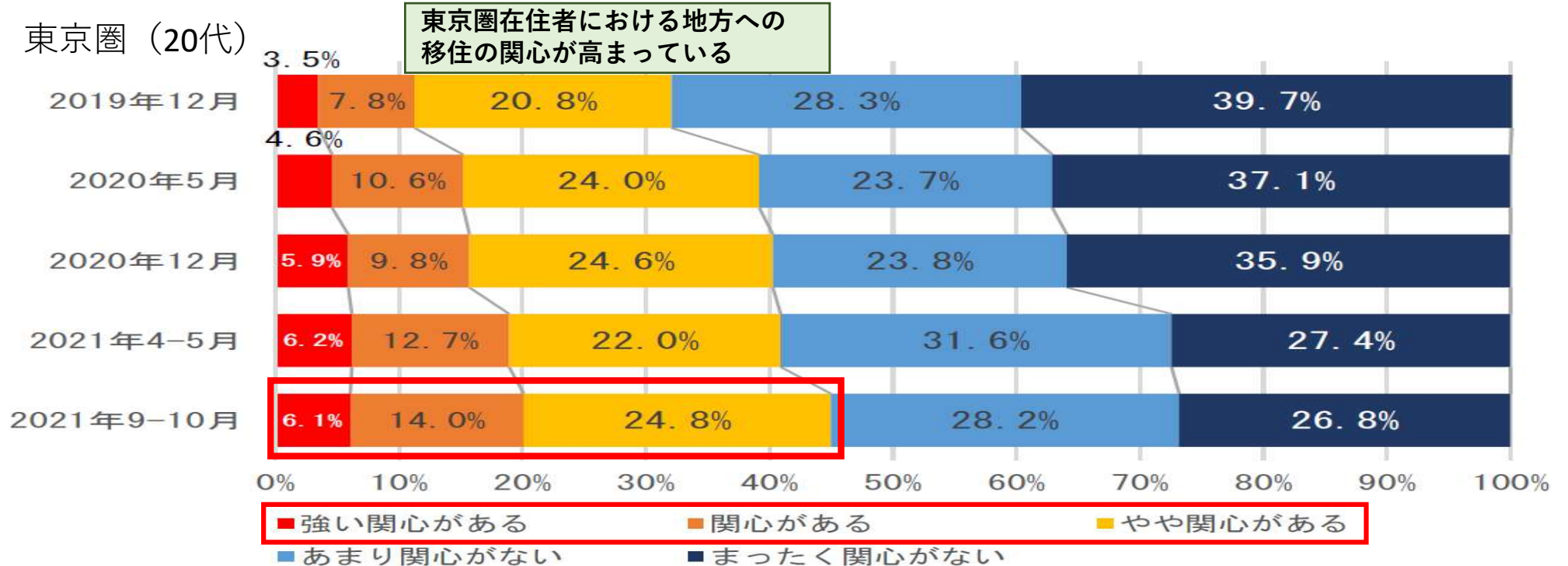
10 地方への移住の関心

〈社会増減〉

東京圏（全年齢）

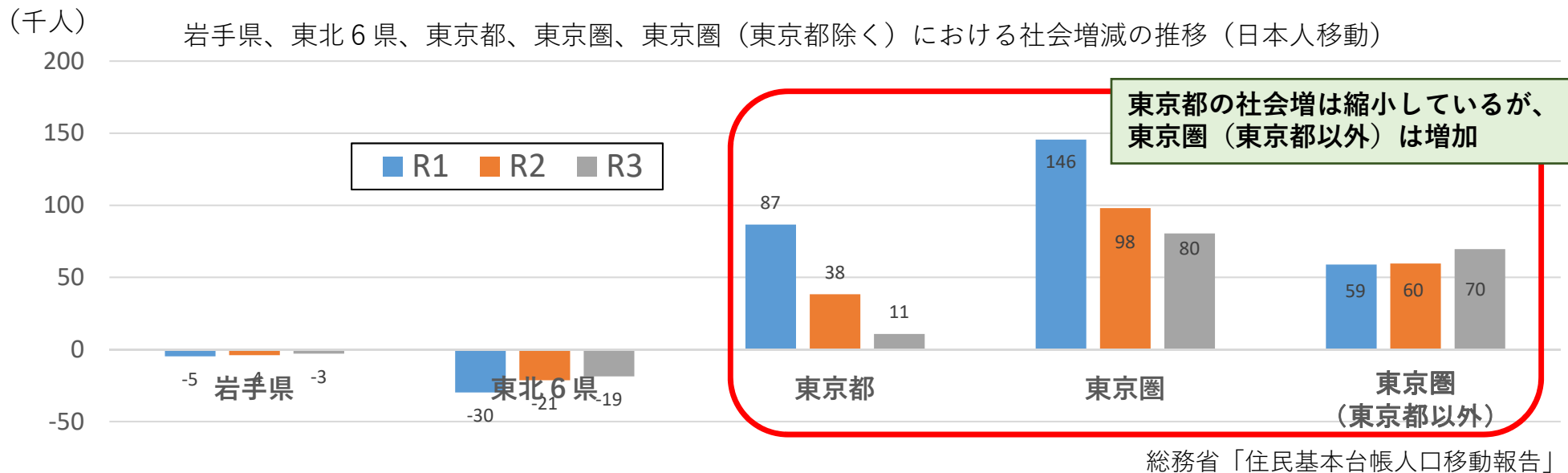


東京圏（20代）



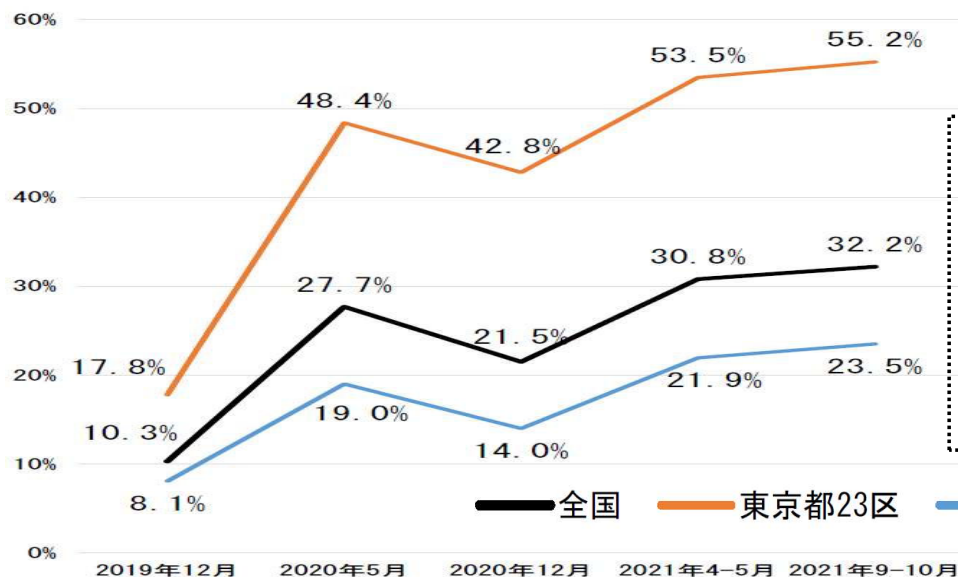
11 東京からの地方への人の流れ

〈社会増減〉



12 地域別テレワークの実施状況

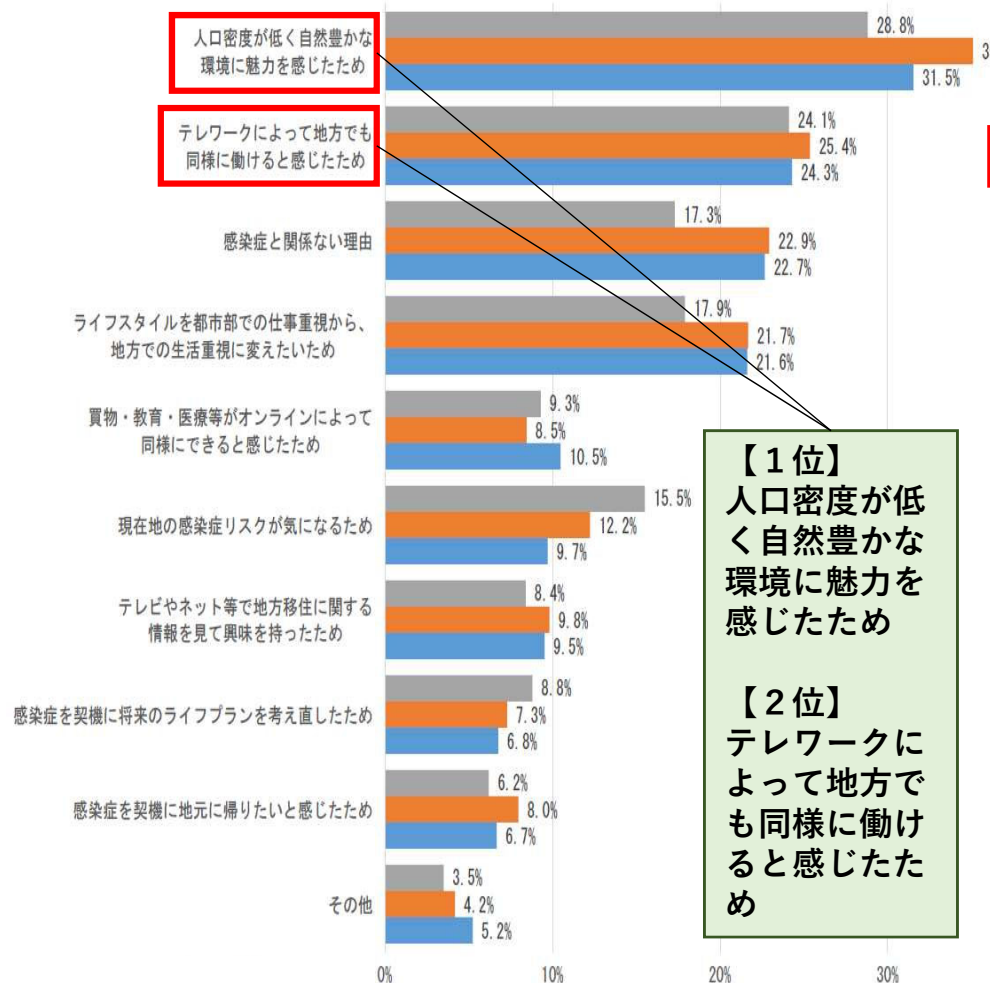
〈社会増減〉



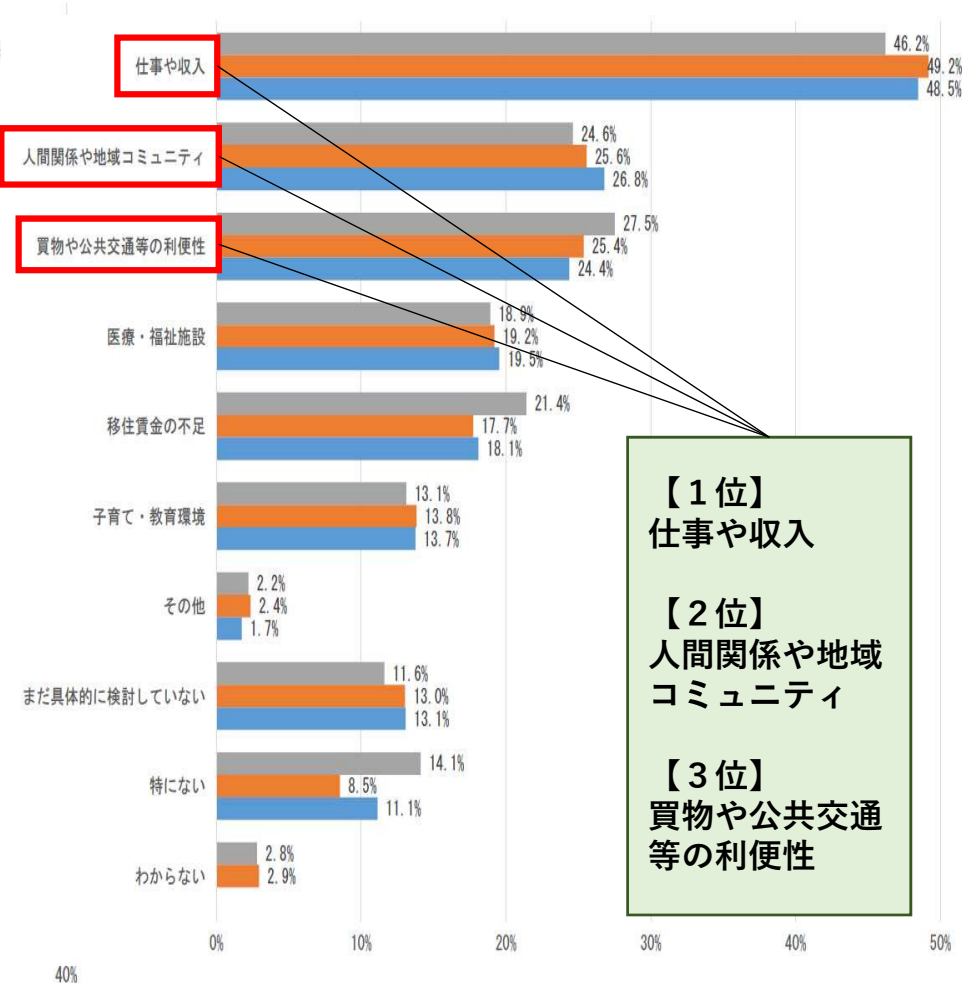
テレワーク実施率は全国的に上昇傾向

- ・ 地方圏は、三大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）以外の北海道と35県。
- ・ 東京都23区は、東京圏の内数。
（東京圏：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、
名古屋圏：愛知県、三重県、岐阜県、
大阪圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）

■ 地方移住への関心理由



■ 地方移住にあたっての懸念

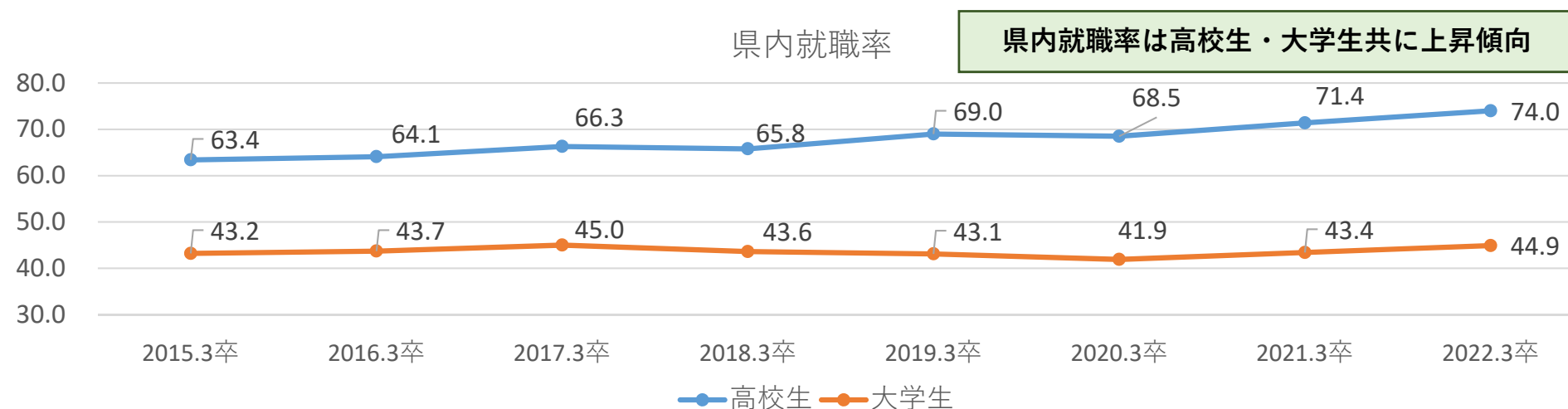


※「特になし」と回答した人の割合は前々回は20.0%、前回は9.5%、今回は10.2%

■ 2020年12月 ■ 2021年4-5月 ■ 2021年9-10月

14 県内就職率（高校生・大学生）

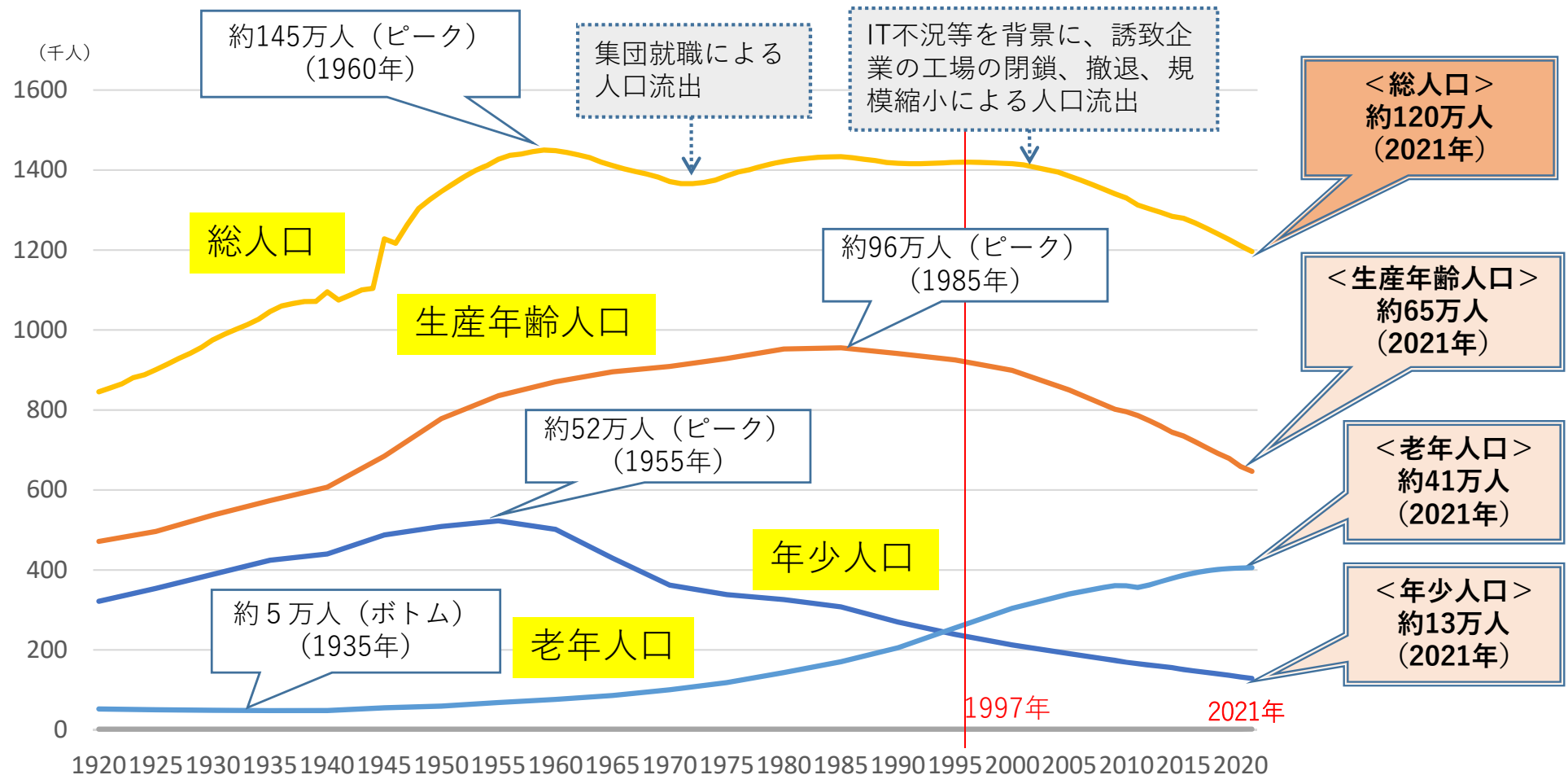
〈社会増減〉



岩手労働局「新規高等学校卒業者の職業紹介状況」、「新規大学等卒業者の就職内定状況」

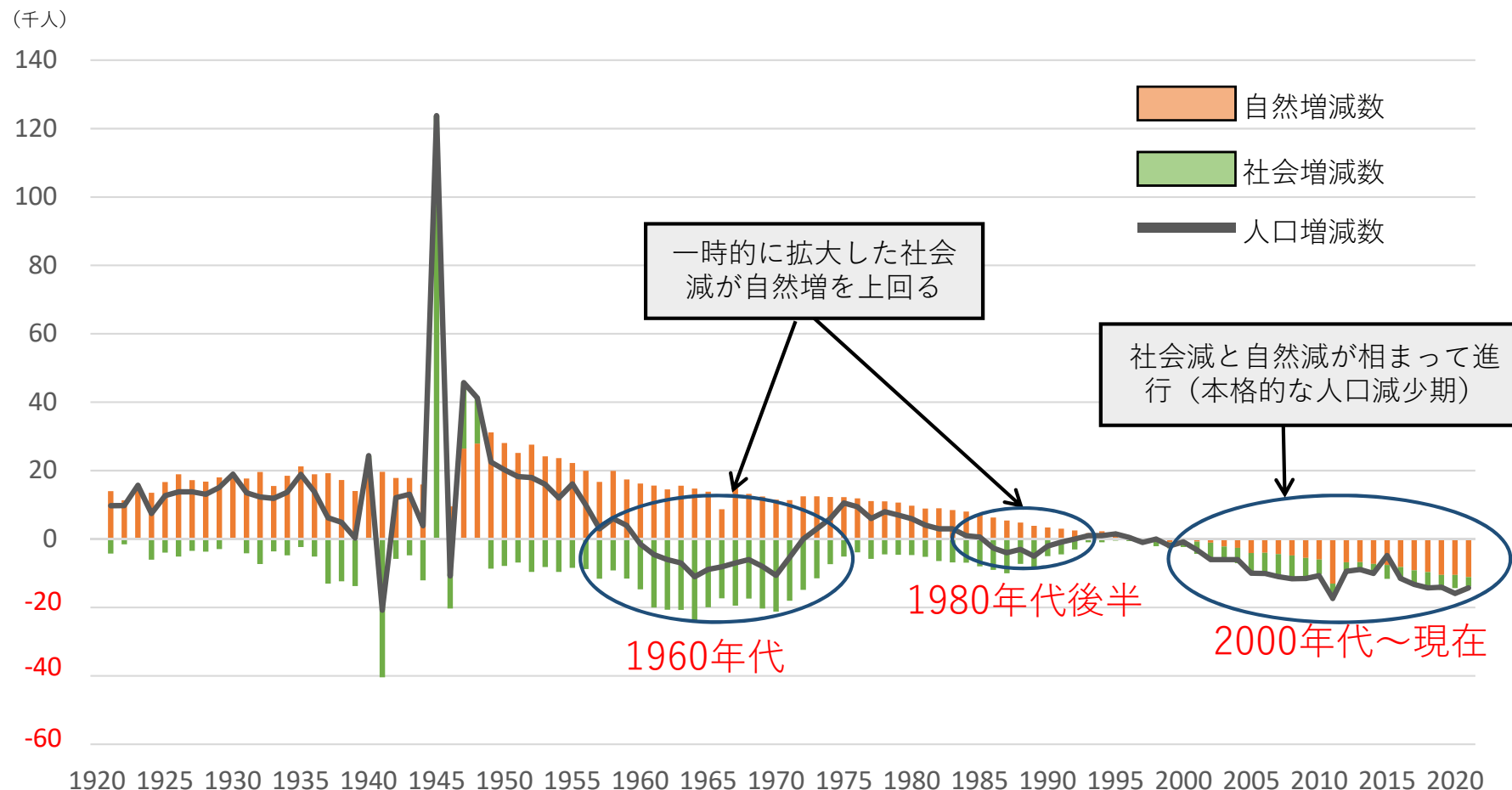
■ 人口の推移

- ・ 本県の総人口は、1997年以降減少し続けており、2021年の人口は120万人
- ・ 生産年齢人口は、ピークである1985年と比べ29万人減少、年少人口は、ピークである1955年と比べ39万人減少
- ・ 老年人口は、最も少なかった1935年と比べ36万人増加



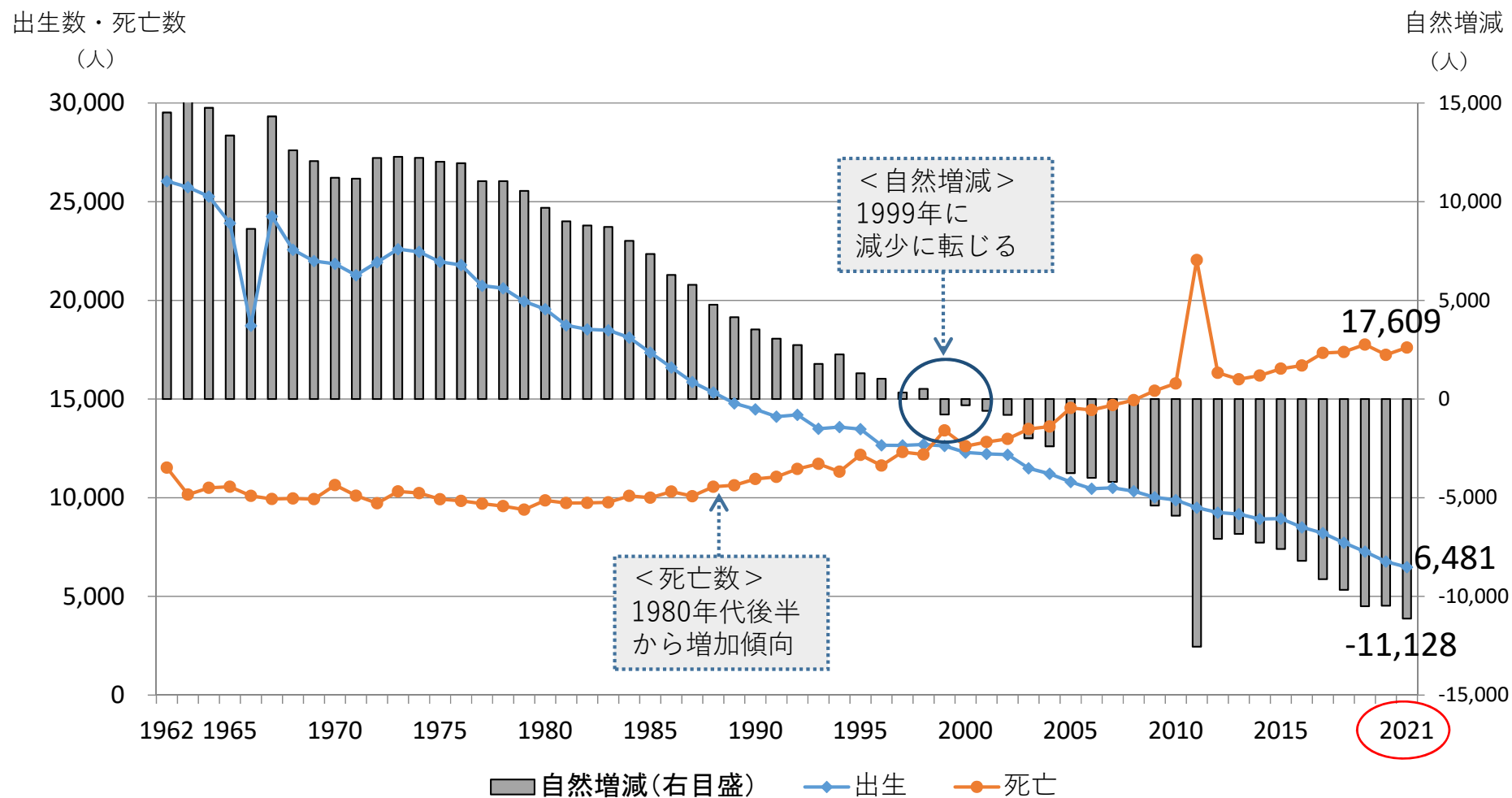
■ 人口の増減数

- 本県の人口減少期は、1960年代、1980年代後半、2000年代から現在までの3つ
 - 1960年代、1980年代後半：一時的に拡大した社会減が自然増を上回ったため
 - 2000年以降：社会減と自然減が相まって進行（本格的な人口減少期へ）



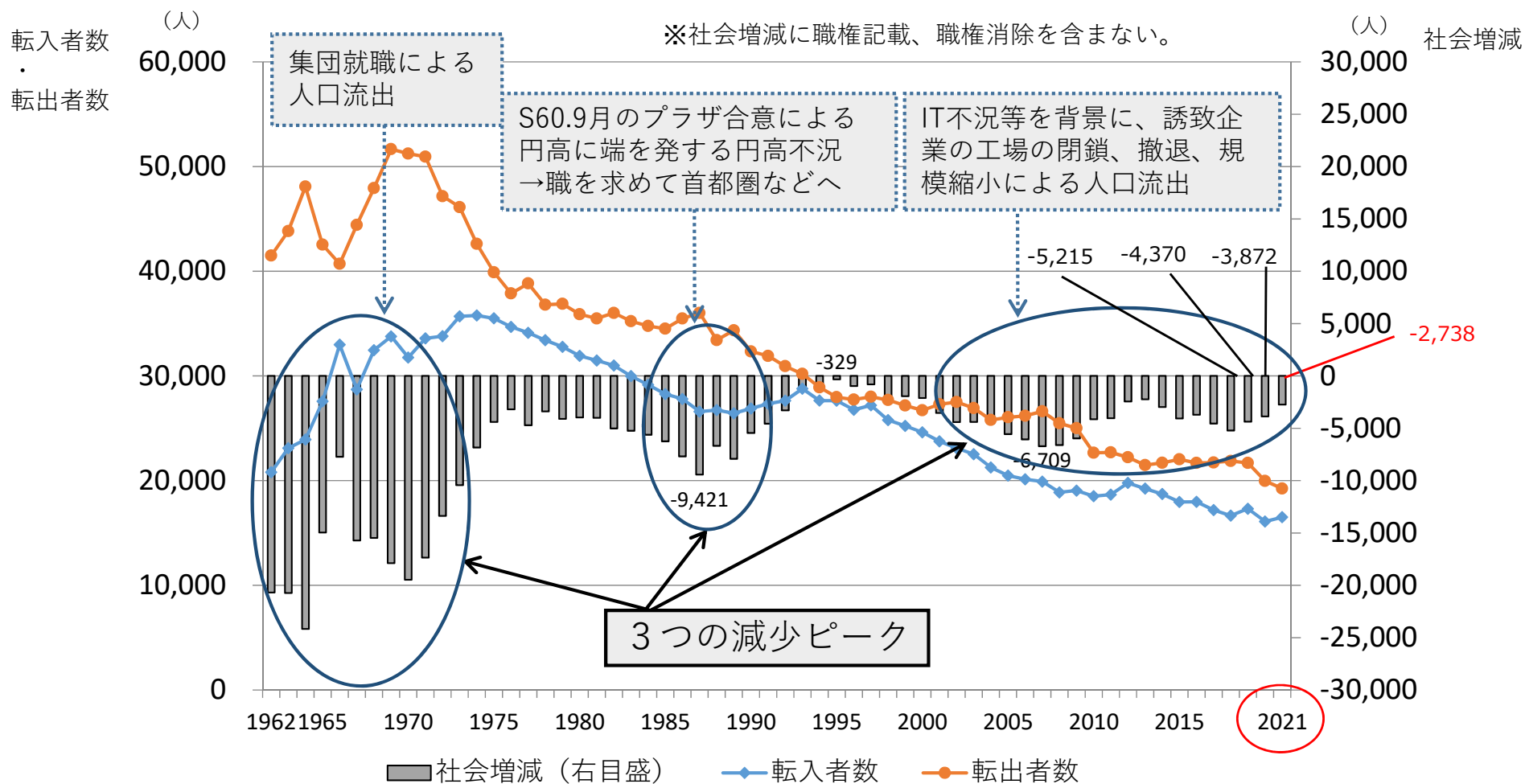
■ 自然増減の推移

- ・ 本県の自然増減は、出生数の減少、死亡数の増加により、1999年に減少に転じ、以降は減少数が拡大傾向
- ・ 死亡数は、1980年代後半から増加傾向



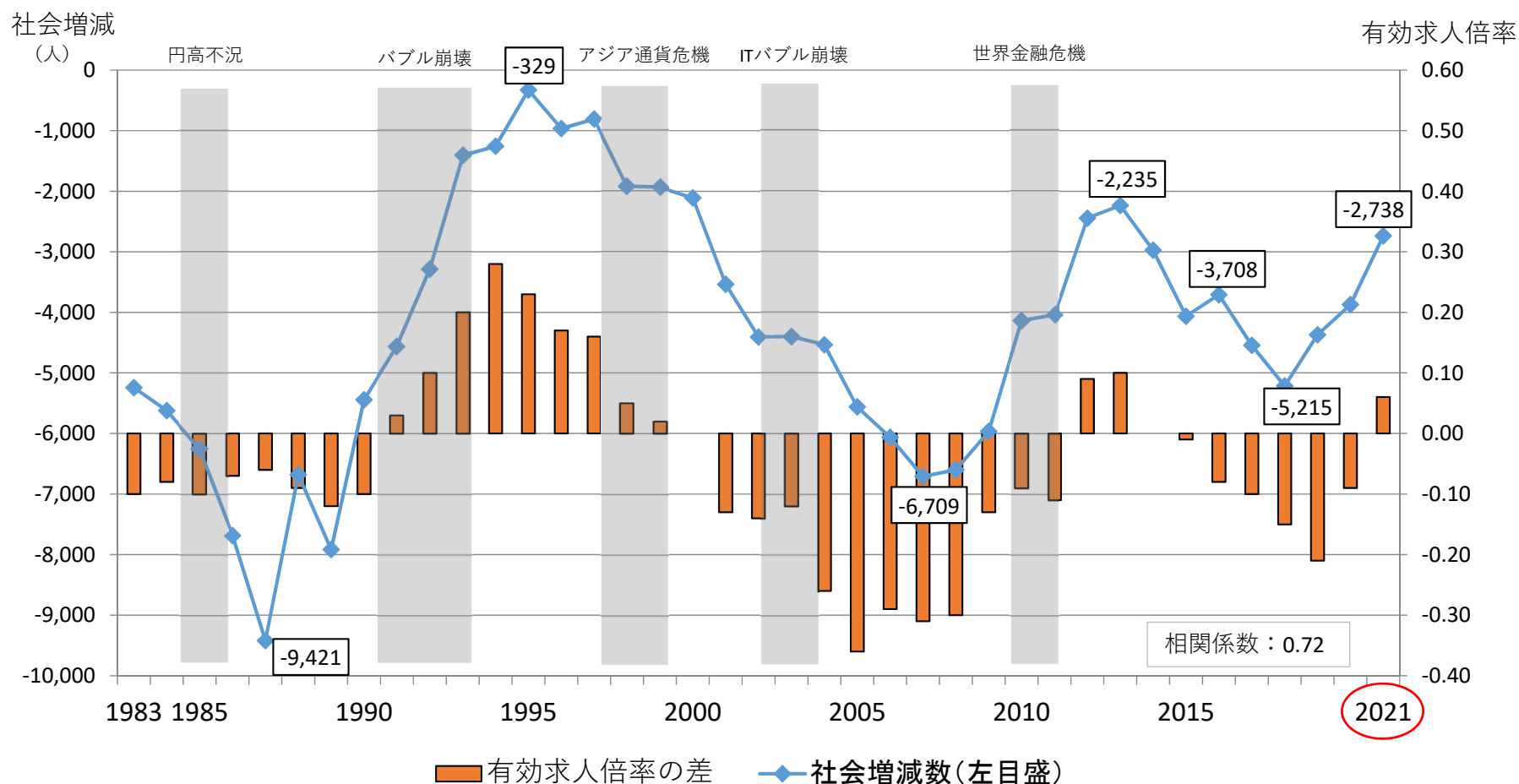
■ 社会増減の推移

- ・ 本県の社会増減は、1960年代、1980年代後半、2000年代後半の3つの減少ピーク
- ・ 2014年から2015年にかけて社会減が拡大、2016年にはいったん社会減が縮小
- ・ 2018年には▲5,215人と5千人を超えたが、2021年には▲2,738人



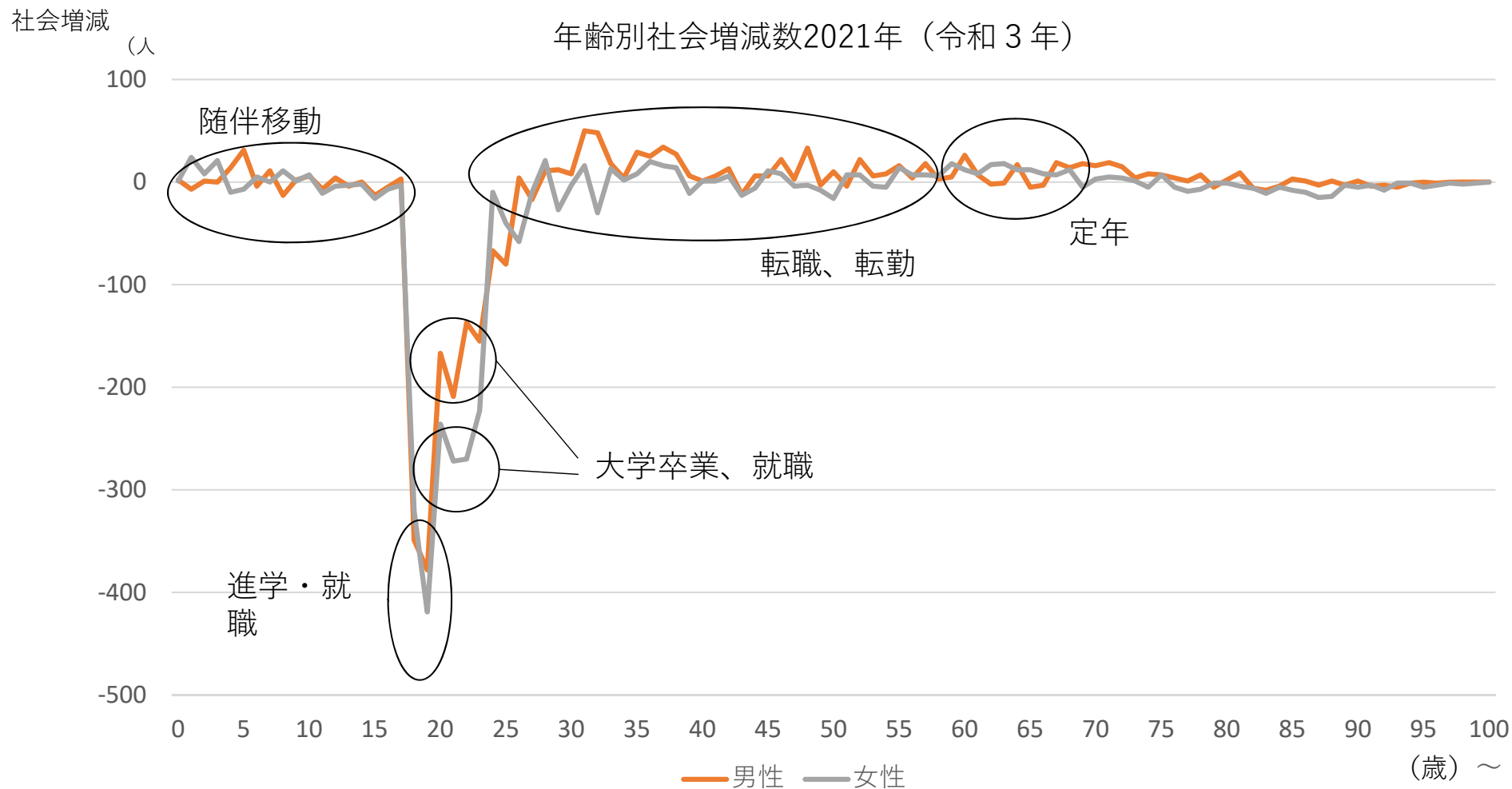
■ 社会増減数と有効求人倍率の全国差の推移

- 人口の社会減は雇用情勢と関係が深く、本県の有効求人倍率が全国平均を上回ると社会減が縮小し、全国平均を下回ると社会減が拡大する傾向



■ 社会増減の推移

- ・ 社会減は、18歳の進学・就職期、22歳前後の就職期に顕著。特に、22歳前後では、女性の社会減が大きい
- ・ 高校卒業者の希望する進学先、若者の希望に見合う就職先の確保が必要



■ 人口移動(世代別、男女別)

- ・ 生産年齢人口、年少人口は、2015年と比較して、全ての圏域で男女ともに減少
- ・ 老年人口は、沿岸圏の女性を除き、増加

		2015 ①	2016	2017	2018	2019	2020	2021 ②	増減率 (②-①)/①	
県央	男性	年少人口	29,838	29,255	28,847	28,253	27,809	27,254	26,800	▲ 10.2
		生産年齢人口	142,708	140,778	138,786	136,998	135,347	131,099	129,411	▲ 9.3
		老年人口	51,757	53,230	54,469	55,512	56,431	57,011	57,679	▲ 11.4
	女性	年少人口	28,987	28,561	28,197	27,747	27,383	26,579	26,174	▲ 9.7
		生産年齢人口	146,238	143,912	141,866	139,623	137,594	134,024	132,353	▲ 9.5
		老年人口	72,264	73,894	75,258	76,467	77,365	78,280	78,951	▲ 9.3
県南	男性	年少人口	30,324	29,653	28,894	28,152	27,338	26,377	25,608	▲ 15.6
		生産年齢人口	141,755	139,100	136,530	134,049	132,472	129,736	128,148	▲ 9.6
		老年人口	63,767	65,060	66,006	66,684	67,291	67,507	67,980	▲ 6.6
	女性	年少人口	28,615	27,777	27,014	26,292	25,523	24,821	24,003	▲ 16.1
		生産年齢人口	133,561	131,002	128,054	125,463	122,930	120,000	117,871	▲ 11.7
		老年人口	90,509	91,288	91,991	92,258	92,282	91,791	91,799	▲ 1.4
沿岸	男性	年少人口	10,373	10,029	9,698	9,312	9,007	8,667	8,399	▲ 19.0
		生産年齢人口	57,006	55,751	54,149	52,441	50,688	46,874	45,388	▲ 20.4
		老年人口	29,155	29,510	29,762	29,977	29,995	29,440	29,241	▲ 0.3
	女性	年少人口	9,962	9,676	9,266	8,924	8,540	8,235	7,859	▲ 21.1
		生産年齢人口	50,273	48,993	47,547	45,949	44,441	43,184	41,700	▲ 17.1
		老年人口	40,465	40,556	40,588	40,494	40,301	40,181	39,839	▲ 1.5
県北	男性	年少人口	6,687	6,463	6,214	5,988	5,743	5,465	5,217	▲ 22.0
		生産年齢人口	31,896	30,944	29,920	29,057	28,153	27,328	26,297	▲ 17.6
		老年人口	15,886	16,130	16,360	16,609	16,653	16,921	17,057	▲ 7.4
	女性	年少人口	6,206	5,956	5,705	5,466	5,268	5,049	4,814	▲ 22.4
		生産年齢人口	31,449	30,428	29,470	28,469	27,488	26,571	25,530	▲ 18.8
		老年人口	22,770	22,994	23,073	23,195	23,245	23,228	23,247	▲ 2.1

・年少人口の減少率は、男女とも県央圏の減少率が最も小さく、県北が最も大きい。

・生産年齢人口は、県央圏男女、県南圏男性の減少率が小さい一方、沿岸圏男性が最も大きい。

※年齢不詳を除く。